

第1学年 生活科学習指導案

日 時	平成21年11月5日(木) I校時
児 童	男子23名 女子32名 計55名
指導者	T1 相馬 芳子 T2 池田 幸子 T3 佐々木三枝子(ふれあい共育推進員)
場 所	プレイルーム

1 単元名 みんなだいすき

2 単元について

本単元は、新学習指導要領(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようになる。」の内容を受けて設定した。ここでは、児童が家庭での生活に目を向け、家の人と仕事をしたり、児童相互に教え合ったりする中で、家庭における家族の役割や家族の一員として自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行うようになることをねらい設定した。

児童は、小学校の生活にすっかり慣れ、運動会やマラソン大会などの学校行事をはじめ、縦割り班や子供会の活動にも、湯本小学校の一員として楽しく取り組むことができるようになってきた。生活科の学習では、これまでに学校内や学校周辺の探検をとおして、学校の施設や自然の様子、学校生活を支えている人がいることなどがわかり、きまりやマナーの大切さも意識するようになってきた。また、アサガオの世話や生き物探しなどの活動をとおして、身近な自然や生き物に関心をもつことができるようになってきた。その活動の中で、2年生と「なかよしペア」をつくったり、希望をもとにしたグループで活動させたり、学級で、学年全体でと、そのときの児童の思いや場の設定、安全性などを考慮して学習形態を工夫してきた。表現に関しては、絵や文を使って、少しずつ表現できるようになってきたが、まだ表現力が未熟なため、学習シートなどを使いながら、指導している段階である。個人差も大きく、自分なりの表現というところまでには至っていない。

本単元に関わって、お手伝いという形で予備調査を行った。お手伝いをいつもしている児童と時々やっている児童を合わせると全体の4分の3を占めていた。しかし、ほとんどやっていない児童が4分の1あるということもわかった。「なつやすみだいすき」で夏休みの計画を立てるにあたって、家の仕事(お手伝い)についてもすすめたが、日常のものにはなっていないようだ。仕事の内容としては、靴揃え、お風呂洗い、洗濯物たたみ、食器洗い、玄関掃除、弟・妹の世話などが上位に上げられ、かける時間や難易度も様々であった。さらに、仕事をしたときの感想を聞くと「つかれる」「たいへんだ」「いやだ」「ふつう」などといったマイナス面をあげた児童が多く、「楽しい」「気持ちがいい」「うれしい」というプラスの感想は少なかった。家庭の受けとめ方も様々で「お手伝いをやってくれて助かる」という人と「かえって手間がかかるので、たいへん」という人があった。

指導にあたっては、段階ごとに以下のように考える。

「出会う」段階では、ふだん「家族」ということを意識するということが少ない児童に「いえのなかのしごと みつけ!」ということで、家の人仕事を調べたり、自分でもできそうな

仕事を見つけたりする活動を通して、家庭生活を改めて振り返らせる。そこで、当然のことながら、1年生の児童の多くは、家族にやってもらっていることが多く、そればかりか、自分でできることすらやってもらっている現実を知らせる。また、一緒に遊んだり、出かけたり、作ったり・・・と家族と楽しい経験をしたり、困ったときや病気やけがをした時、心配をさせたり、世話になったりしていることにもふれながら、家族がかけがえのないものであることにも気付かせたい。その大好きな家族のために自分たちもできることをやってみようと投げかけ、単元全体の見通しをもたせながら、「家のみんなが楽しく生活するために、自分でできることをする」という目的意識をもって取り組めるようにしていきたい。

「関わる」段階では、「いえのなかのしごとにチャレンジ！」で、家族の協力を得ながら、一緒に家の仕事にチャレンジし、仕事をする楽しさや家族の一員として家族のためになることができる充実感や喜びを感じ取らせたい。その際、多くの仕事にチャレンジするというのではなく、一つか二つの仕事にチャレンジし、家の人からコツを教えてもらいながら、継続して取り組むことによって、ある程度自信をもって友達に紹介できるところまでもっていききたい。また、家庭での児童の様子や児童への励ましを家の人から書いてもらえるようチャレンジカードを用意し取り組ませる。そして、「ぼくもわたしもおしごとめいじん」では、おしごと名人として自分の経験した仕事を発表したり、友達の仕事ぶりを見せてもらったりして交流するなかで、新しく自分で仕事に取り組んでいこうとする意欲をもつことができるようにしたい。ここでは、同じ仕事に取り組んだ児童でグループをつくり、発表させる。発表方法を考えたり、役割を決めて練習したりする中で、学び合ったり、励まし合ったりさせていきたい。また、多様な発表方法にも目を向けられるようにし、これからの学習に生かしていきたい。

「振り返る」段階の「もっとたのしくしよう」では、「おしごとはっぴょうかい」を受けて、新しく自分でできることを決め、継続して取り組むことができるようにさせる。家庭で継続して取り組めるよう、毎日の仕事の様子を記入できるような「おしごとカード」を準備する。この取り組みは、長い期間で取り組み、冬休みの「おてつだいだいさくせん」につなげ、日常化できるようにしたい。そして、家族の一員としてがんばったことや家族の温かさにふれ、家族を大切にしていこうという意識にまで高めていきたい。

単元全体を構成するにあたっては、事前に学年通信や学級懇談会などで家庭にその趣旨を知らせ、協力を求めるようにしたい。また、家族のあり方が多様化しており、児童のプライバシーに配慮することが大切だと思われるので、家族構成などには深入りしないよう指導には十分注意していきたい。この単元をきっかけにして、1年生なりに家族の「絆」を感じられればと思う。

3 単元のねらい

家庭生活における家族の役割や家族の一員として自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たしていこうとすることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・ 家の人や家庭での生活に目を向け、家の人としてみたい仕事を行ったり、自分でできることを継続して行ったりしようとしている。

【思考・表現】

- ・ 家庭生活を支える家族のことや自分でできることを考え、それを表現することができる。
- ・ 家庭での生活がより楽しくなるように考え、家庭の仕事を分担したり、家の人が喜ぶことを工夫したりして、生活することができる。

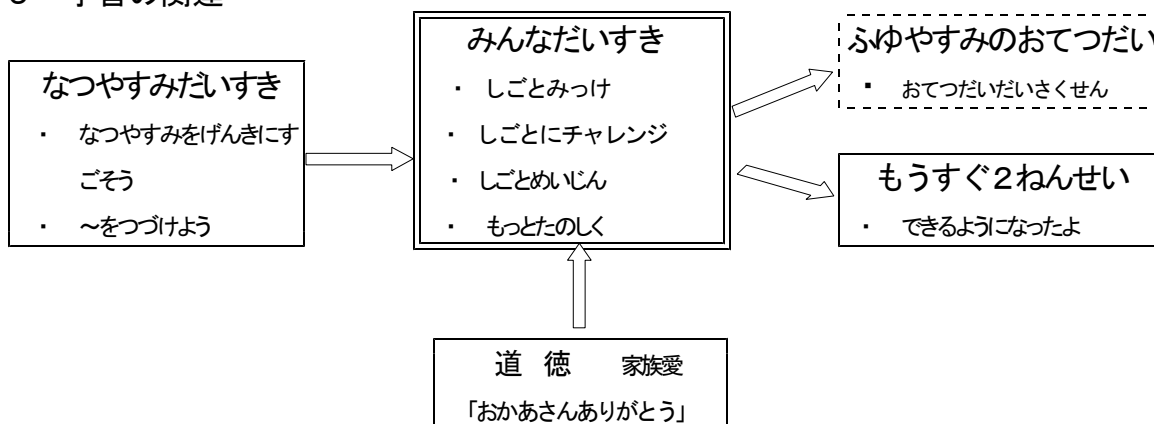
【気付き】

- ・ 家庭の温かさや家族の大切さを感じ、家族の一員として自分でできることがあることに気付いている。

4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	① 意欲的に家の仕事に取り組もうとしている。 ② 家の人と一緒に仕事をして気付いたことなどを進んで発表しようとしている。 ③ 家族の一員として自分でできることを新しく見つけ、実行しようとしている。
思考・表現	① 自分の仕事を分かりやすく友達に話したり、教えたりすることができる。 ② 家庭での新しい取り組みをした様子について、自信をもって発表することができる。 ③ 家のみんなが楽しく生活するために、自分でできることについて考え、工夫して家の仕事をするすることができる。
気付き	① 家庭の中で、家の人がしている仕事に分かる ② 自分のよさや友達のがんばりについて気付くことができる。 ③ 家庭での自分の仕事や役割が分かるとともに、家の人に支えられていることや家庭の温かさに気付くことができる。 ④ 自分でできることを進んで行うことを通して、家のみんなを支え合って生活することの楽しさや大切さ、進んで取り組んでいる自分のよさに気付くことができる。

5 学習の関連



6 単元指導計画(計 1 3 時間)

段階(時)	活動名	○ねらい・学習活動	評価
出会う (3)	いえのなかのしごと みつけ!	○ 家庭での家の人仕事を調べ、自分でできそうな仕事を見つけることができる。 ・ 家庭での家の人仕事には、どのようなものがあるか調べる。 [1] ・ 家庭での家の人仕事や自分の仕事について発表し、家の人や家庭の生活について振り返る。 [1] ・ 自分でできそうな仕事ややってみたい仕事を見つける。 [1]	<関一①> <気一①>
関わる (7)	いえのなかのしごと チャレンジ!	○ 家の人と一緒に仕事をするにより、自分でできる仕事を見つつけ、取り組むことができる。 ・ 自分でできそうな仕事ややってみたい仕事の計画を立てる。 [1]	<関一①> <思一①>

		<p style="text-align: center;">—— 家の人に教えてもらいながら、一緒に仕事をする ——</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での仕事の様子について振り返る。[2] 	
本時 7/7	しごと ぼくも わたしも いじん	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家の人と一緒に取り組んだ仕事をグループ毎に発表することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ おしごと発表会の準備をする。[2] ・ おしごと発表会をして、やってみたことやできるようになったことを教え合う。[2] 	<p><関-②></p> <p><思-①②></p> <p><気-②></p>
振り返る (3)	もつと たのしく しよう	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭での生活をより楽しくするために、新しく自分でできることを考え、継続して取り組むことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ より楽しく生活することができるようにするために、自分が家庭でできることを考え、発表する。[1] <p style="text-align: center;">—— 家庭で自分の決めた仕事に取り組む ——</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭で新しい取り組みを行い、できたことを発表し合い、楽しく生活するために自分でできることに気付き、継続して取り組もうとする意欲を高める。[2] 	<p><関-③></p> <p><気-③></p> <p><思-②③></p> <p><気-④></p>

7 本時の学習

(1) 仮説とのかかわり

仮説2 「自分なりの表現・発表をさせるための工夫の手だて」

<相手を意識した発表>

「おしごとはっぴょうかい」では、家庭で実践してきた仕事を時間を設定して、発表する側、聞く側になって交流させていく。どちらの立場も経験させることによって、より相手を意識した発表になり、いろいろな方法を学ばせる機会にもなるのではないかと考える。

<グループ活動>

「おしごとはっぴょうかい」では、紹介したい仕事ごとにグループを作って活動させる。個人で発表することに自信のない児童も、教えあったり、励まし合ったりしながら自分の実践をグループでの役割を担いながら発表できるのではないかと考える。また、グループでの発表ではあるが、それぞれが家庭で実践してきたことを自分らしい表現で発表できるように発表の構成の段階で支援する。一人一人の感想や意見を入れるなど仕事のやり方を明に終わらないようにしたい。

<発表の仕方の基本を提示>

発表するにあたっては、話す内容や話し方の基本を提示し、それを自分たちの発表の中に入れることにより、限られた時間の中でポイントをしばった発表ができるのではないかと考える。

<発表を聞くためのワークシート>

各グループの発表を聞く際、観点を絞ったワークシートを用いる。各グループ毎の発表を比較・検討することができ、自分の考えを決定するためのよい資料になると思われる。

(2) 学習のねらい

「おしごとはっぴょうかい」をとおして、新しい仕事に取り組もうという意欲がもてるような発表ができる。

【関心・意欲・態度】

- ・ 友達の発表を聞いて、新しく自分で仕事に取り組んでいこうとしている。


【思考・表現】

- ・ 自分の仕事を分かりやすく友達に話したり、教えたりすることができる。

【気付き】

- ・ 自分のよさや友達のがんばりに気付いている。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	・留意点 ◇支援 ☆評価
導入 5分	<p>歌「にんげんていいな」始まる前</p> <p>1 学習のめあてを確認をする。(一斉)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おしごととはっぴょうかいをしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ この前は、～をみたので、今度は○○からだ。楽しみだな。 ・ 発表がんばるぞ。・上手にできるかな。 <p>2 発表する側、聞く側の約束の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを守ってがんばるぞ。 ・ 大きな声でゆっくり話そう。 ・ 友達のすごいところいっぱい見つけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までの活動の流れが分かるような掲示をしておく。 ・ 前時の活動をふまえて、新たな活動の意欲がもてるような言葉かけをする。 ・ ポイントのみ確認し、活動への意欲を高めながら発表に移れるようにする。
活動 30分	<p>3 おしごととはっぴょうかいをする。 3グループずつ3回に分けて発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに自分たちの場所へ移動し、役割を確認する。 ・ 聞く側も、はじめの位置や聞く順番を確認する ○ 発表する側、聞く側に分かれて活動をする。＜活動タイム1＞ ＜予想される仕事の内容＞ 食器洗い・食器ふき・米ときぎ・玄関掃除・風呂洗い・洗濯物たたみ・ふとんしき・ズック洗い・・・ ・ 家のやり方と違うな。 ・ おもしろそうだから、やってみたいな。 ・ やったことがないけど、できるかな。 ・ 大変そうだな。これは、やめておこう。 ・ 思ったより、簡単なんだ。私にもできそう。 ○ グループを替えて同じ活動をする。 ＜活動タイム2＞ ＜活動タイム3＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇発表がスムーズに進むように、あらかじめグループ発表の場を設定しておく。 ◇T1, T2は、グループの様子を見ながら、発表が滞ったり、めあてがうまくできていないときは支援する。T3は特別に支援が必要な児童を担当し、場に応じた支援をしていく。 ・ 聞く側は、各グループの発表を音楽の合図でローテーションさせて聞くようにさせる。また、発表を聞くときには、今までの経験・難易度・時間に加え、家の人に喜んでもらえる仕事かという観点で見えていくようにさせる。 ・ 発表では、家の人からのコメントも入れ、仕事をしたときの思いを引き出し、聞く側に「やってみたい」「楽しそうだ」という感じをもたせられるようにする。 ☆自分の仕事を分かりやすく友達に話したり、教えたりすることができたか。(発表) ☆自分のよさや友達のがんばりについて気付くことができたか。(つぶやき、わくわくカード、発表) <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>
まと	<p>4 本時の活動の振り返りをする。(一斉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ わくわくカードをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆友達の発表を聞いて、新しく自分で仕事に取り組んでいこうとする意欲をもつことができ

め 1 0 分	<p>○ 感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、コツがわかったので、～をやってみたいです。 ・わたしは、うまく仕事のコツを伝えることができ、うれしかったです。 ・家のいろいろな仕事がわかってよかったです。 ・～さんたちの発表がとてもがんばっていたと思います。 <p>5 次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ新しい仕事を決めるんだな。 	<p>たか。(わくわくカード、発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのよさやがんばりを認め合えるようにさせる。 ・仕事をする楽しさや意欲を引き出せるよう児童のカードや発表を取り上げていく。 <p>◇わくわくカードがなかなか書き出せない児童については、活動の様子を思い出させながら、書ける部分だけ書かせ、挙手をさせたりしながら、参加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人に喜んでもらえるということから、新しく自分でできる仕事を考えることを確認する。
------------------	--	---